
国立レイピア学園日常記 1

咲宮優梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

国立レイビア学園日記1

【Nコード】

N1662L

【作者名】

咲宮優梨

【あらすじ】

国立レイビア学園。そこは特殊能力を持つ少年たちが通う学校。今日もゆるやかに過ごす少年たちの日常が語られる……。――

国立レイピア学園。そこは特殊な能力を持つ少年が通う学校。

特殊能力は多岐にわたり、それはいくつかの種類に分けられている。
攻撃系、防御系、補助系。

そして、千年に一度とまで言われる全能系。

石のタイルが敷き詰められた中庭で金属を打ち合う音が不規則に響いている。

今の時間は、補助系の刀剣訓練授業の真っ最中だ。

打ち合っているのは、身体強化の能力を持つリインと治癒回復の能力のヒシヨウ。

押し始めているのはリインで、やはり能力の使用が大きいのだろう。そう、授業中の能力使用は禁止されていないのだ。

その理由はいくつかあるが、まず1つに能力の精度があげられるということがある。

いつか戦線に出たり、学園の教師となり実践訓練を教えるかもしれないので能力の精度は上限ぎりぎりまであげておく必要があるのだ。能力を使っている相手と戦うという経験をつけておく為であったりもする。

とにかく、禁止はされていないのでリインも容赦なく能力を使っている。

周りの生徒たちが打ち合う2人に見とれている間に勝敗はついた。今までよりもひととき高い金属音が響くとヒシヨウが持っていた剣は宙を飛び、そしてタイルとタイルの間にささる。

それを確認したヒシヨウは力が抜けたように座り込む。

「もちよつと…手加減してくれたって…いいじゃん……」

「嫌だね。手加減したら僕が負けるもん」

はあ、と大きくため息をつきながらヒシヨウがこぼした言葉に、リインはヒシヨウに手を差し伸べつつ返す。

ヒシヨウはその手を力なく掴むと、ゆっくり立ち上がる。

頬についた汗を手の甲で拭い、拭った汗でぬれた手の甲を見ると量は多くないものの血が付いていた。

「げ、お前いつの間に切ったんだよ？全部防げてたと思ったのに……痛っ！」

ごめん、と謝りながら差し出されたリインのハンカチがヒシヨウの頬にあたる。

ヒシヨウはそれを振り払いながら、右手の指先を自らの頬にあてる。すると傷口がかすかに光り、指先が離れた頬にはもう傷が残ってはいなかった。

「……いつ見てもすごいよね、ヒシヨウって」

「は？何が？……ああ、これくらいの傷なら10秒からねえって」
「でもヒシヨウの治癒回復レンスイって能力高いってよく聞くよ？」

高いなら状態異常も回復できるはずだろ、と隣に立って歩くリインにすら聞こえないほどの小さな声でヒシヨウはつぶやく。

事実上では治癒回復レンスイで状態異常は回復できず、異常治癒リゴズでないと駄目なのだが。

「……これで授業終わりだったよな。ってことは……メシだな！？」

「うん……そうだけど。……そんなにお腹すいてたの？」

「当たり前だ！身体が小さくても力が強くて速いお前なんかと打ち合ったからな」

ヒシヨウに悪気はない。それをわかっているからこそ、2人は友達でいられるのだ。

それでも、リインの我慢が大きいのは確かだろう。

授業が終わり、食堂へと向かう波へのりながらリインは思っていた。
た。

（僕の我慢って大きいよな……）

(後書き)

追記：誤字訂正。 以上↓異常

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1662/>

国立レイビア学園日常記 1

2010年10月14日07時56分発行